

[成果情報名] 茶葉に使用するビワ若木からの摘採程度及び摘採開始時期

[要約] ビワ若木からの摘採する程度は大きいほど、翌年の着葉数及び樹容積の増加率が小さく、1年春葉を2~3枚残して摘採すると、1葉重は最も大きく、着葉数の増加率も高い。摘採を開始する時期は、植え付け1年後より2年後の方が総摘採葉重も大きく、植え付け3年後の着葉数及び着葉重が多くなる。

[キーワード] 茶葉、ビワ、摘採

[担当] 農林技術開発センター・果樹研究部門・ビワ・落葉果樹研究室

[連絡先] 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

高機能発酵茶等の茶葉用に使用するビワ葉の摘採方法については、これまで知見が得られていない。このため、若木から摘採する場合の摘採方法とその後の樹の生育について検討し、最適な摘採方法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 植え付け2年後の若木から摘採する場合、摘採程度が大きいほど、翌年の着葉数及び樹容積の増加率は小さくなる。
1年葉を全て摘採する方法は、摘採量は多いが摘採後に葉焼けや落葉の発生が見られる。1年春葉を2~3枚残して摘採すると、1葉重は最も大きく、着葉数の増加率も高い。
1年夏葉のみの摘採は、翌年の生育は盛んになるが摘採葉重は少ない（表1）。
2. 摘採開始する時期を植え付け1年後に行う場合と2年後に行う場合を比較すると、植え付け2年後に開始する方が総摘採葉重も大きく、植え付け3年後の着葉数及び着葉重が多くなる（表2、3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 品種や樹勢等により摘採後の新梢の発生状況が異なるので、摘採程度は樹勢により加減し、肥培管理を十分に行って樹勢強化に努める。

[具体的データ]

表1 若木における摘採程度の違いと摘採葉重、1葉重、摘採葉率、着葉数、樹容積

区	摘採葉重 (kg/m ³)	1葉重 (g/葉)	摘採葉率 (%)	着葉数			樹容積		
				摘採前 (枚/樹)	1年後 (枚/樹)	増加率 (%)	摘採前 (m ³ /樹)	1年後 (m ³ /樹)	増加率 (%)
1年葉全摘採	0.81	3.6	84	2,518	3,552	146	9.5	13.1	138
1年春・夏葉摘採	0.67	3.9	71	2,092	3,707	175	7.9	11.8	149
1年夏葉摘採	0.41	2.5	52	2,132	4,477	216	8.2	15.4	188

品種: シャンパン(実生)

植え付け: 2005年5月

摘採時期: 2007年8月

摘採1年後の調査: 2008年9月

摘採葉率 = 摘採葉数 / 摘採前の全着葉数 × 100

摘採方法

1年葉全摘採: 2年枝と1年枝の境で剪除し、1年春葉・夏葉全て摘葉する。

1年春・夏葉摘採: 1年春葉2~3枚残して剪除し、剪除した枝から摘葉する。

1年夏葉摘採: 1年春葉と夏葉の境で剪除し、剪除した枝から摘葉する。

表2 若木における摘採開始時期の違いと着葉数の推移

区 (摘採開始)	1年後 (2006年)		2年後 (2007年)		3年後 (2008年)	
	摘採前	摘採直後	摘採前	摘採直後	摘採前	(対2006年摘採前比)
植え付け1年後	1,189	552	2,042	770	3,626	305%
植え付け2年後	1,002	(摘採なし)	2,437	778	3,921	391%

品種: シャンパン (実生)

植え付け: 2005年5月

摘採方法: 1年春葉2~3枚残して剪除し、剪除した枝から摘葉

表3 若木における摘採開始時期の違いと摘採葉重、1葉重及び植栽3年後の着葉重

区 (摘採開始)	摘採葉重 (kg/樹)			1葉重 (g/葉)			着葉重 (kg/樹)
	1年後 (2006年)	2年後 (2007年)	計	1年後 (2006年)	2年後 (2007年)	3年後 (2008年)	
植え付け1年後	1.4	4.4	5.7	2.2	3.4	3.5	12.8
植え付け2年後	—	6.3	6.3	—	3.8	3.6	14.6

[その他]

研究課題名: ①本県特産茶葉・ビワ葉の有効成分を活用した高機能性茶葉の開発
②茶葉とビワ葉を原料とした高機能発酵茶の新機能解明と実用化に向けた研究

予算区分: 県単

研究期間: ①2005~2007年度、②2008~2010年度

研究担当者: 徳嶋知則、林田誠剛